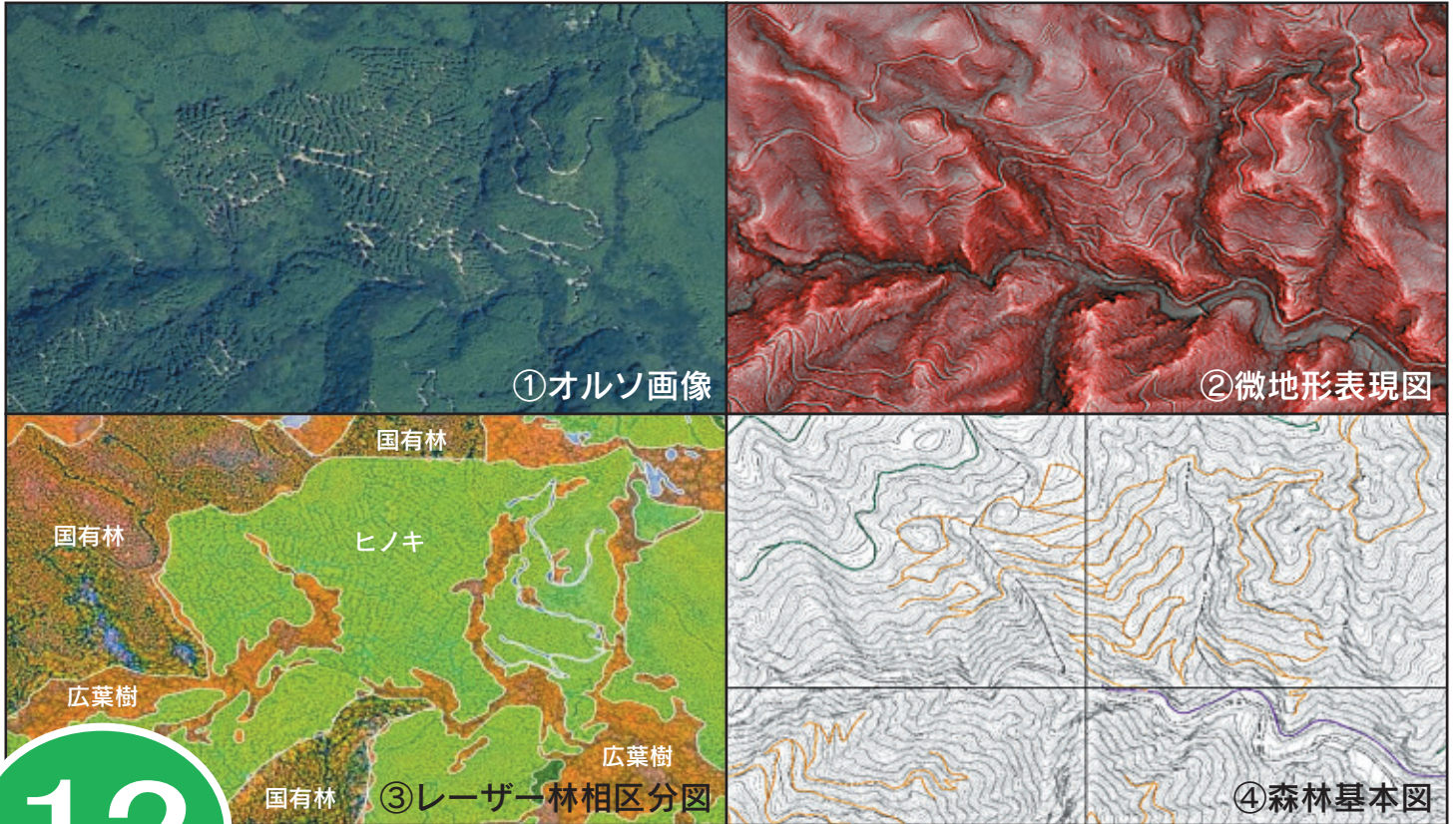


# 長崎の林業

小曾根星堂書



航空レーザー測量による地形解析と森林資源解析で得られる主な図面（県央振興局）

12

## 目次

●林政だより	新たな森林管理システムの2年目の取組状況……………2～3
●特集記事	家族の力で原木伐採から製材加工までを担う 佐世保市 米倉製材所 米倉誠二さん……………4～5
●林業普及だより	雲仙市 千々石中学校総合学習 ～未来の担い手事業～… 6
●地方だより・県央	I C T技術を活用した効率的な森林・林業の実現に向けて ～航空レーザー測量による 森林資源基礎データの構築～… 7
●地方だより・対馬	対馬しいたけ生産者頑張ってます！ 今年の受賞者ダイジェスト…………… 8
●林業団体情報	長崎県森林ボランティア支援センターの取組…………… 9
●センターだより	シマハランを大量に増やす ～細かく切っても芽が出る！？～……………10
●紹介コーナー	有限会社 尾崎建築 尾崎晃さん……………11
●長崎の山と森	烏帽子岳（対馬市）……………12

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。



2021 No.795

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎県庁」のホームページ「目的で探す」→「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

# 新たな森林管理システムの2年目の取組状況

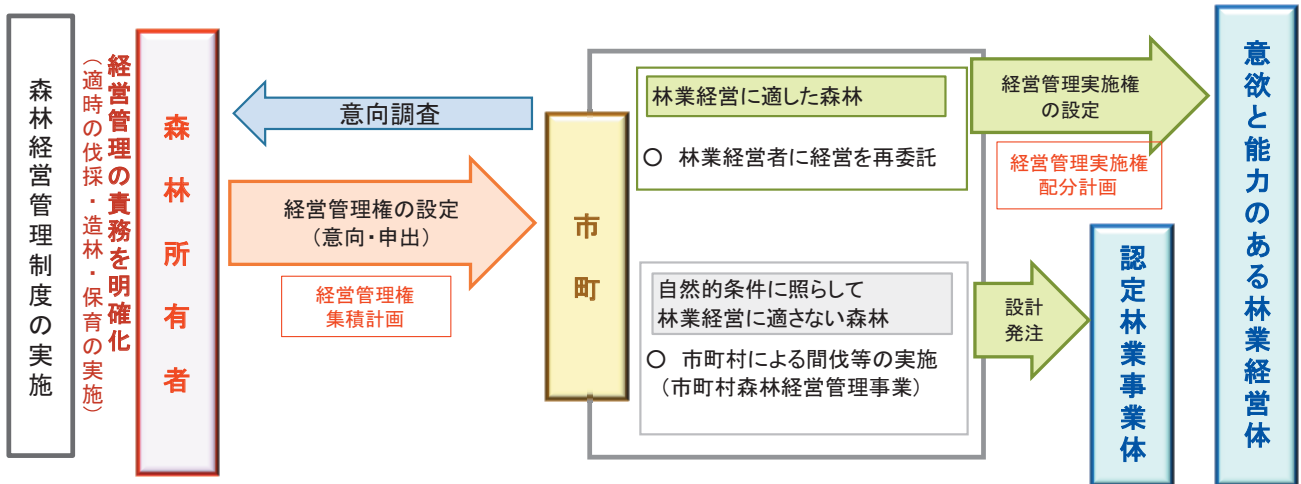


図1 新たな森林管理システムの仕組み

## 新たな森林管理システムの意向調査とは

本システムでは、スギやヒノキ林のうち、これまで経営管理されていない人工林を対象に、今後の経営管理の意向を森林所有者の皆様に確認させていただきます（図1）。この取組が始まり2年が経ちましたので、県内での取組状況をご紹介します。

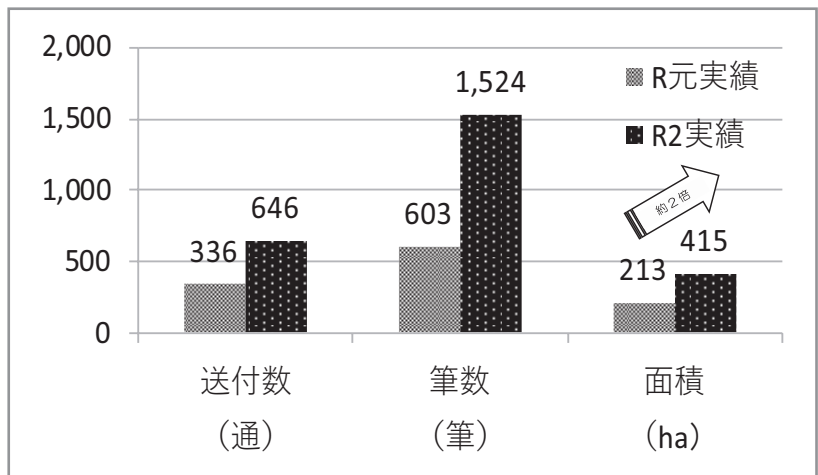


図2 意向調査の実施状況

## 意向調査の実施

まず、森林所有者の経営管理の意向を確認する意向調査は、令和元年度の11市町から令和2年度は15市町において実施され、取組が拡大しています。このうち、調査票の送付数が336通から646通へ、対象筆数が603筆から1,524筆へ、面積が213haから415haへそれぞれ約2倍の増加となりました（図2）。全国では調査面積が令和元年度約15万haから令和2年度約25万haと増加しています。また、回答いただいた内容は、

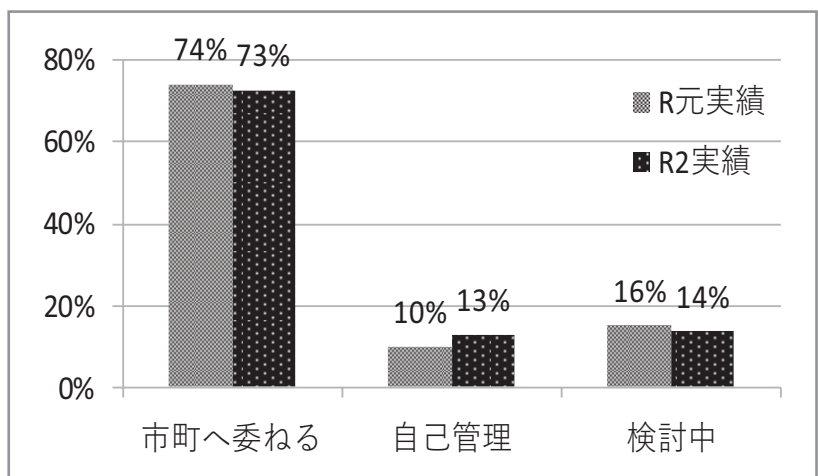


図3 意向調査の回答状況

「市町にゆだねる73%」、「自己管理13%」、「検討中14%」となっております、市町による経営

管理を希望される方が3/4と大半を占めている状況です（図3）。

## 所有者不明森林等への対応

意向調査を実施した際、現在の森林所有者が不明の場合は、市町において探索を行っています。この対応については、1件1件解決していくほかに手段はないため、多くの時間と手間を要します。令和2年度に長崎県においても、所在が不明であった森林所有者の探索を行う取組が始まりました。全国的には探索を行った所有者数が約2,000人に対し、判明した所有者数は約980人となっており、所有者不明森林等への対応が難しいことが改めて分かりました。

## 経営管理権集積計画の策定

続いて、意向調査後に策定する経営管理権集積計画では、森林の状況や境界の確認などが必要であり、計画策定に至るまで更に時間を要します。令和元年度は1市だった取組は令和2年度に5市町に増加しました。このうち、件数が6件から107件へ、面積が4haから89haとなり、令和2年度は大きく増加しました(図4)。全国の集積計画の面積は、令和元年度が約560haから令和2年度に2,900haへ増加しており、令和3年度以降も更なる増加が期待されています。

## 森林整備の取組状況

経営管理権集積計画の策定後は、現地調査を行い、森林整備を進めていきます。令和2年度は市町が発注する市町村森林経営管理事業の取り組みが開始され、間伐など約6haの森林整備が実施されました。長崎県では市町が行う森林整備の発注を支援するため、これまでに3回の森林整備事業発注支援研修会を開催しました(写真1)。市町は、現在の森林の状況から将

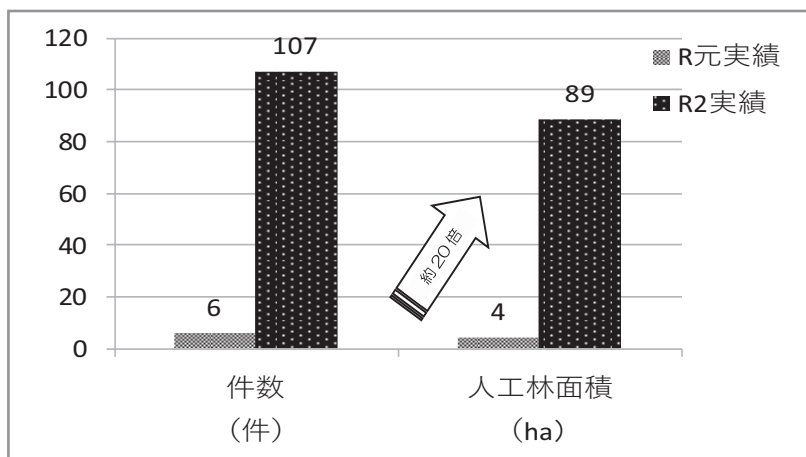


図4 経営管理集積計画の策定状況

来の姿をイメージし、森林整備の発注を行います。

全国では約1,000haの森林整備が実施されており、その多くは間伐施業でしたが、主伐・植栽を実施した取組もあり、森林の状況に応じた森林整備が行われています。これまで適切な森林整備を実施していなかった森林が、今後の森林整備の推進によって、より健全な森林へ誘導されることが期待されます。

## 今後の取組

今後、市町を中心に経営管理されていない人工林の意向調査の実施を一層進めていきます。また、森林所有者の皆様からの申出も可能な場合がありますので、最寄の市役所・町役場へご相談ください。

(林政課 森林管理班)



写真1 市町支援研修会の開催

## 【特集記事】

# 家族の力で原木伐採から製材加工までを担う



佐世保市 米倉製材所 米倉誠二さん

写真右からよねくらせいじ米倉誠二さんと奥様のふえこフエ子さん、ご長男のたつま達眞さんと奥様のたえこ妙子さん

### 平戸藩御用達の宿場町「江迎町」

佐世保市の中心部から約20km、30分程車を走らせると可愛らしい繭玉が顔を覗かせる趣のある町に到着します。かつて平戸藩の宿場町として賑わいを見せた江迎町です。平戸藩の城主が参勤交代の折に体を休めた本陣屋敷が今も変わらぬ形で残されており、一般公開の時期には県内外から多くの観光客が訪れます。夏には高さ25mのタワーに優美なあかりが灯る「千灯籠まつり」、約500年の歴史を持つ「水かけ地蔵まつり」、秋の寿福寺の「逆さ紅葉」など四季折々の美しさを体感できる町です。

今回はこの江迎町で、家族で力を合わせ地場産材の流通を支える「米倉製材所」の米倉誠二さんに話を伺いました。

### 山師から製材所経営の道へ

現在68歳の誠二さんのご実家はミカン農家でした。農作業のない時期に山師の仕事を兼業していた父の姿を見て育ち18歳頃には山の仕事を手伝っていたそうです。卒業後1年程、地元のパルプ工場で働きながら免許を取り2tトラックを購入、伐採した木を地元のパルプ工場に卸していました。そんなある

日、宮崎県にある製材所の社長を務める中村さんから注文が入りました。沖縄県の首里城建替えのため大量の榎の木が必要となりその依頼を受けたのです。北松地区の榎は大変良質なため、地元江迎だけでなく松浦、平戸、田平まで足を延ばし毎日1~2本を集めトラック1台分になったら宮崎へという流れを作り約15年の歳月をかけ納めました。右の写真は40年程前の貴重なものです。



首里城への搬出の様子

ある時、雨で山に入れず作業場で奥様のフエ子さんと木を裁断している所に、中村さんが訪ねて来られました。当時は丸鋸で1本

ずつ裁断しており、その地道で危険な作業を目の当たりにした中村さんは大変驚き、その場で会社に連絡し、使用していない製材機械を至急江迎まで運ぶよう手配して下さったそう。首里城建替えの槓の木から繋がったご縁がきっかけで昭和63年、現在の米倉製材所を立ち上げることとなりました。



10 mの長材も裁断可能な製材機

## 「良い木」との出会いを求めて

米倉製材所では市場で仕入れた材ではなく、ほとんどが米倉さん自ら伐採したものを製材し加工販売しています。若い頃から父と共に山師の仕事をしてきたため、私用で出かける際も常に良い木を求めて目を光らせ、つい遠回りして普段使わない道を使ってしまうそう。特に気にかけて見るのは、面積は狭くとも険しい谷になっている山。樹齢50～60年程の風に煽られて揺れない環境にある木を探します。谷で育った木は年輪が真ん中にあり真っ直ぐで素直な美しい材に仕上がるそう。良い場所を見つけると地主さんを探し自ら交渉に入ります。最近は境界も持ち主も不明な場所が多く、近所の人や昔からの土地の人に声をかけて回るため時間も手間もかかります。しかし自分で伐採し、100本中1本でも良い木に巡り合えた時は何より嬉しい、伐って見ないと分からないのも面白いと話をされました。

## 家族の分担作業で効率化をはかる

米倉製材所では家族4人それぞれに役割があり分担作業をしています。木の交渉から伐採、運搬までの作業を主に誠二さんとフエ子さんが担当、製材から加工までを達眞さん、作業所内の清掃や事務接客、SNSの活用等を妙子さんが担当しています。山ではフエ子さ

んが木を玉切りし2tトラックを運転して作業場まで運搬すると聞きました。ひっきりなしにかかってくる電話や直接買い付けにくるお客さんを見ていると米倉さんのお人柄と製材所の人気ぶりが伝わってきました。

## 地域密着型の製材所を目指して

製材所には建築関係者をはじめ、水産畜産関係者、個人でDIYを楽しむ人などプロアマ問わず様々な方が訪れます。牛舎用の13mを超す特殊な長材から、近隣施設の子ども達が使うワークショップ用の木材の加工などあらゆるニーズに応えられるのも伐採から加工までを担う地域に根差したこの製材所ならではの。また、おが屑は牛舎の敷物かんなくずに、馬舎には馬の目に入らないよう粗い鉋屑かんなくずを敷物に、端材は薪ストーブ等の焚物として余す所なく利用しています。



(左) スギの木の磨き丸太 およそ10mの特注品  
(右) 持込みの槓の丸太を磨き、床柱に加工する様子

## 木の魅力を未来へ遺す仕事

戦後植林されたスギやヒノキが今伐採の時期にきています。昔は伐採後に再度植林する地主さんが多くいましたが、今はその流れが難しくなっているそうです。他の雑木に負けなように、苗を植えて10年間は下刈をしながらこまめな手入れが必要です。その大変さが分かっているからこそ、若い世代の地主さんに無理な願いは出来ないと言います。限りある資源である山や木を守りたいという想いのもと、自ら伐った木がこの先も人々の暮らしを支える役割を担う事に喜びを感じるといふ米倉さん。家族みんなで伐採から製材までを支えるアットホームな製材所は、今日も美しい木本来の姿を後世に伝え遺すべく、心を込めて木を伐り、丁寧に磨き上げられています。

(NPO 法人地域循環研究所)

林業普及だより

## 雲仙市 千々石中学校総合学習～未来の担い手事業～



総合学習授業の様子（1回目）

雲仙市は、恵まれた気候・土壌条件を活かした多様な産地が形成されている農林水産業が盛んな地域です。同市では、従事者の減少と高齢化が進む中、次代の地域を支える担い手の育成確保に向けた取組を推進しています。

そこで、毎年、地元小中学校の生徒を対象に、総合学習授業の一環として農林水産業の今を紹介する「未来の担い手事業」を実施しています。

今回依頼があった雲仙市立千々石中学校では、1回目の学習を令和3年9月14日（火）に実施し、森林の働きの大切さや林業における仕事内容について、クイズ等を踏まえながら、みんなで楽しく学びました。

そして、令和3年10月11日（月）の2回目の学習では、島原振興局林務課と雲仙森林組合の職員の方を講師に招き、野外学習として校庭に出て「ろ過装置」や「山の模型」を用いた実験などで、水源涵養機能や土砂災害防止機能について学びました。他にも「間伐」することの意味について、体を使って体験することができました。

最後には、生徒全員が実際に林業の現場で使用しているドローンの操縦を体験するなど、非常に有意義な学習となりました。

活動後、生徒は「森林について、今まで知らなかったことをたくさん知れてよかった。」と嬉しそうに話していました。

（雲仙市 農林課）



模型を使った実験の様子（2回目）

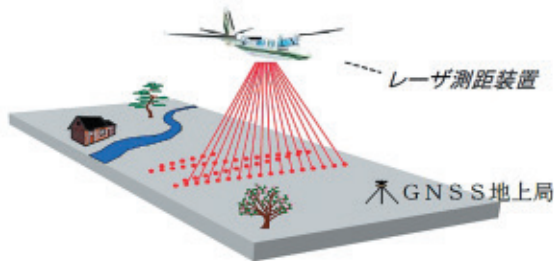


間伐の仕組みを教えている様子（2回目）

地方だより

# ICT技術を活用した効率的な森林・林業の実現に向けて ～ 航空レーザー測量による森林資源基礎データの構築 ～

県央振興局では、令和2年、3年度の2か年をかけて、管内全域（長崎市、諫早市、大村市、西海市、長与町、時津町、東彼杵町、川棚町、波佐見町）を対象に航空レーザー測量による地形解析と森林資源解析を行っています。



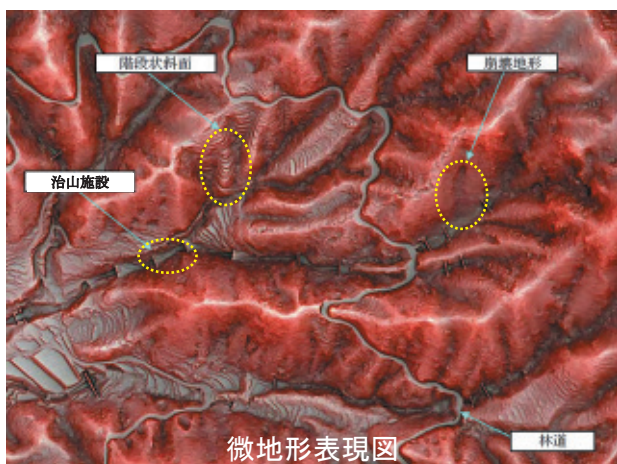
航空レーザー測量

- 成果として、表紙の4つの画像（図面）、
- ①オルソ画像（平面地図化した写真）
  - ②微地形表現図
  - ③レーザー林相区分図
  - ④森林基本図

が得られるほか、以下に示す情報を整理し、活用していく予定です。

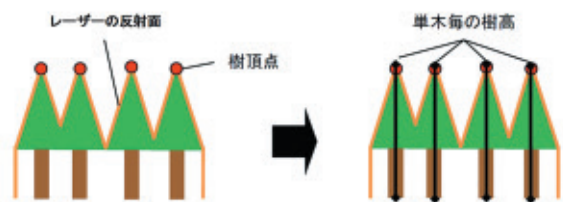
## ○地形を読み込む

主に微地形表現図の判読から過去の崩壊地形や地すべり地形を抽出し、今後の山地災害の発生危険度予測に活用するほか、林内路網や既存治山施設の配置の確認、治山ダムの背面土砂の堆積状況の把握などを行います。

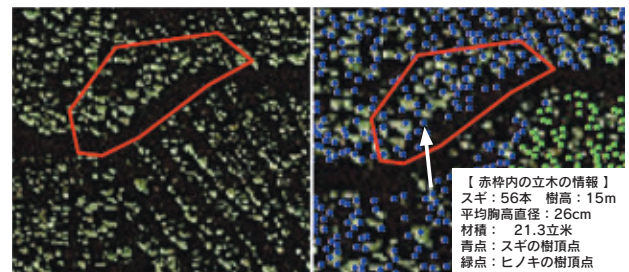


## ○森林資源量を想定する

地面や樹木からのレーザーの反射により樹頂点を読み取り、樹高を算出するとともに現地調査で得られた実際の樹高、胸高直径などの情報との相関から、単木毎の樹高、胸高直径、幹材積を想定します。



この単木毎の情報を任意の区域について集計することで、収穫材積を想定できます。これを利用して、これまで利用間伐等の実施前に現地で行っていた標準地調査や毎木調査の労力軽減につなげていきます。



航空写真 ⇒ 樹頂点表示

## ○活用の広がり

今回の航空レーザー測量により解析された森林資源のデータを利用間伐事業の発注前調査へ導入し、精度検証を行い、将来的に管内市町や森林組合などの林業事業体も有意に活用できる方法を模索していきたいと考えています。また、このレーザー測量は、レーザー照射密度が高く、精度的に管内初の取組であるため、測量成果の提供要望も多く、既に地形情報は、砂防事業や道路建設など土木行政部門をはじめ、都市計画部門へも情報提供し、活用が広がっています。

（県央振興局 森林土木課）

地方だより

# 対馬しいたけ生産者頑張ってます!今年を受賞者ダイジェスト★

対馬しいたけは、その品質が高く評価され、県内・全国の品評会等で多くの方が受賞されています。今回は、受賞者の方々をご紹介します。

(町 / 栽培経験年数 / 品評会特賞受賞回数)

●第60回長崎県乾しいたけ品評会



はらの みつぐ  
原野 貢さん たづる さん  
(農林水産大臣賞 / どんこ / 箱物) 他3点入賞

(上県町 / 14年 / 県7回) 毎日ほだ場に通り、コツコツ頑張ってきた。工夫を凝らし、こだわって栽培してきた成果。家族や人夫さんの協力あっての受賞。今後も品質向上目指して、さらに努力していきたい。



はだ ゆういちろう  
波田 裕一郎さん  
(林野庁長官賞 / 香信中肉 / グラム物)

(豊玉町 / 15年 / 県1回) 獣害対策に苦労したが、その甲斐あって納得いく出来になった。この受賞は父をはじめ、家族や先輩方のおかげ。出品は駒菌2年のほだ木を主体にこまめに採取し、品揃えした。



よしだ ひさし  
吉田 永さん  
(長崎県知事賞 / どんこ / 箱物) 他1点入賞

(厳原町 / 41年 / 県10回) 気候の影響もあったがこまめに散水を行い、重量がしっかりしたものが採れた。選別は一苦労したが、賞をいただけて大変嬉しい。



おとなり しゅうへい  
乙成 修平さん  
(長崎県知事賞 / 香信厚肉 / グラム物)

(上県町 / 8年 / 県1回) 移住後興味から始まった栽培。多くのことを教えていただいた先輩方や家族あってこそこの受賞。毎年違う気象条件に四苦八苦だが、少しでも早く諸先輩方に近づけるよう努力したい。

●第54回全農乾椎茸品評会



ながお けんいち やすこ  
永尾 賢一さん(右) 靖子さん(左)  
(農林水産大臣賞 / 花どんこ / 箱物)

(厳原町 / 47年 / 全農9回) こだわりを持って生産している。「香りもいい」と言われることが嬉しい。受賞は名誉なこと、今後の励みになる。妻に感謝。これからも2人で喜ばれるものを作りたい。

●第34回特用林産功労者賞



いとせ つとう わたなべ だいすけ  
糸瀬 傳さん(右は渡辺 大祐対馬振興局長)

(上対馬町 / 49年 / 県14回) 受賞は思ってもみなかった。しいたけは手入れするほど大きくなる。これからは安心して食べられるおいしいしいたけを作りたい。

受賞された皆様、おめでとうございます。今後、益々のご活躍を期待します。

(対馬振興局 林業課)



## 林業団体情報

## 長崎県森林ボランティア支援センターの取組

長崎県では県民参加の森林づくりを進めるため平成21年度から長崎県森林ボランティア支援センター（以下「センター」）を設置しています。

県内の森林ボランティア活動は、当初18団体が行っていましたが、現在では48団体904名となり森林保全への関心が高まっています。特に昨年からの活動団体が増えており、SDGsや企業のCSR活動も要因と考えられます。

## 技術研修会

センターの主な業務として、技術研修会を開催しています。森林ボランティア活動を適切で安全に行うための現地実習です。技術研修会では竹林整備実習や森林整備の伐木造材などを行っており、鉋、手ノコの使い方やチェーンソーの使用法・伐木造材時の注意点など基本的なことを行っています。



技術研修会（竹林整備）

## 企業の森づくり

SDGsへの取組が広まりCSR活動の取組として森林へ目が向けられ、企業による森林づくりが増えています。

センターへは「企業として森林づくりを行いたいが何から取り組むべきか」、「どんな事ができるのだろうか」といった内容が寄せられます。森林所有者と企業の橋渡しを行い、目的に合った森林づくりのサポートも行っています。今年度は2社の協定締結が行われ、企業の森づくりがスタートしています。

## ふるさとの森フェスタ

毎年開催している「ふるさとの森フェスタ」は、多くの人に森林に触れ合ってもらい、楽しく遊び学びながら森林のことを考えるきっかけとして開催しています。毎年各ブースは森林ボランティア団体の協力のもと多様な木や竹の楽しみ方を提供してくれています。また森林環境税が森林にどのような使われ方で森林の多面的機能発揮の為の大切な税という周知も目的の一つです。

今年度もながさき県民の森で開催し延べ約350名の参加とコロナ禍の状況の中、森林は賑わいました。



ふるさとの森フェスタの様子

## フォレストマスター制度（新事業）

長崎県が森林整備や木育などの経験者をフォレストマスター登録研修によりフォレストマスターとして登録し、森林に関する授業を行ってほしい団体などに講師（フォレストマスター）として派遣する制度です。

今年5月に竹林整備実習のフォレストマスターを派遣しました。団体からは「竹のことがよくわかった。」「竹林整備の進め方がわかった。」「竹林整備が楽しくなった。」などの声が聞かれました。

森林ボランティア活動や企業の森に関するお問い合わせは当センター TEL095-895-8655 までお気軽にご連絡ください。

（長崎県森林ボランティア支援センター）

## センターだより

## シマハランを大量に増やす～細かく切っても芽が出る!?!～

## はじめに

シマハランの生産現場で、アオ葉が多く発生することが課題となっていますが、シマ葉とアオ葉の多くは別個体であることが昨年度の研究でわかりました。綺麗な斑の個体は優先的に葉が採取されて衰弱するため、より生命力のあるアオ葉の個体が優勢的に増えたものと考えられます。このため、今後も安定してシマハランを収穫するためには、シマ葉の個体を増やす取り組みが必要です。本稿はその増殖方法について紹介します。

## ハランを地下茎節ごとに刻む

ハランの増殖方法として株分けがありますが、一度に多くの苗を生産できる方法ではありません。そこで今回はより多くの苗を生産することを目指し、地下茎を節ごとに細かく刻み、芽や根が発生するか試験しました。試験株として、シマハラン、アサヒハラン、アオハランの3品種、それぞれ4株ずつ計12株を用いました。土から掘り取った地下茎をカミソリで1節ずつに切断しました(写真1)。用土は無菌のパーミキュライトを用いて浅く植え付け、風通しの良い明るい室内に置き、水のみを与え管理しました。



写真1 切り分けた株

早いものは植え付けてから2週間程度で芽や根の伸長が確認されました(写真2)。



写真2 芽と根の伸長の様子

令和3年4月に植え付けてから約半年間栽培した結果、表1のようにすべての品種のハランで高い得苗率でした。このことから、この方法はハランの増殖に有効な手段であると考えられます。

表1 各ハランの得苗率

品種	植え付け株数	成長株数	得苗率(%)
シマ	16	14	88
アサヒ	15	14	93
アオ	16	15	94

## おわりに

得られた苗の葉は15cm程度と小さく(写真3)、葉を収穫できるまで数年かかると考えられます。今後は苗の生育を継続調査し、増殖技術の確立を目指します。

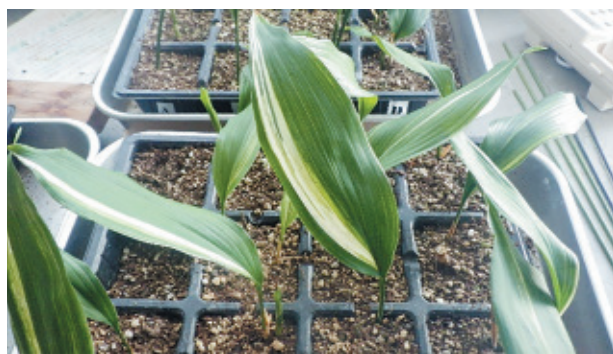


写真3 植え付けから半年後のシマハラン

(長崎県農林技術開発センター)

紹介コーナー

有限会社 尾崎建築 おさきあきら 尾崎晃さん



(左) 上がりかまち框の端材で作ったケヤキのトレー  
(右) 一番人気のイチヨウのカuttingボード

松浦市の道の駅「松浦海のふるさと館」で素敵なCuttingボードに出会いました。優しくころんと丸みを帯びたフォルムにふと目を奪われ思わず手に取ると、素朴な無垢材の温もりが伝わってきました。制作者は建築会社の社長さん。松浦市で長年大工として一般住宅を手掛けて来られた尾崎晃さんです。忙しい仕事の合間を縫い、時間を見つけては会社の一角に作られた隠れ家のような工房で制作をしています。尾崎さんが手がける主なものは手頃な大きさのCuttingボードや昔ながらのまな板、シンプルな風合いのトレー等です。材料はイチヨウやケヤキ、サ

クラなど個人の山で見つけた木や建築の際に出た端材を使用しています。5年前、商工会主催の「トラック朝市」に出品した所、大変評判が良く気軽に購入したいとの要望が増えたため道の駅でも販売するようになりました。建材として使用出来ない曲がった木も尾崎さんの手にかかれば素敵な作品に生まれ変わります。地元の木の有効活用に一役買っている尾崎さん。余計な手を加えない分、木そのものの良さに触れてほしいと話されていました。

(NPO 法人地域循環研究所)



左：制作の様子 右：ケヤキ端材で作られたベンチ

**(有)尾崎建築 代表取締役 尾崎晃さん**

住所：長崎県松浦市御厨町前田免 956 番地 1  
電話：090-9597-0167

## 伊万里木材市況

### 【ヒノキ】

令和3年 11月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m <sup>3</sup> )	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16~18	直	35,000	普通	多い	多い
	16~18	小曲り	32,800	普通	多い	多い
	20~22	直	25,900	普通	多い	多い
	20~22	小曲り	24,900	普通	多い	多い
	24~28	直・小曲り	26,000	少ない	多い	多い

### 【スギ】

令和3年 11月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/m <sup>3</sup> )	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18~22	直	17,000	普通	多い	多い
	16~22	小曲り	15,000	普通	多い	多い
	24~28	直	17,000	普通	多い	多い
	24~28	小曲り	15,000	普通	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

## 烏帽子岳 167.3 m (対馬市)



烏帽子岳展望台から浅茅湾を望む

対馬は島の中央を南北に山並みが続き東西に尾根が海岸線まで迫り、さらに支尾根が複雑に絡み合い山深い豊かな森を形成しています。

烏帽子岳は上島の山並みの南端で対馬のほぼ中央部に位置しています。山容は、地形図をなぞると頂上付近は南北に細長く、東側、南側、西側の三面は陰しく浅茅湾（あそうわん）に切れ込み、その名の通り古来の和装礼装の帽子“烏帽子”の様相をうかがうことができます。

烏帽子岳周辺は自然林と人工林が入り交じり保健保安林に指定されています。とりわけ、和多都美神社神殿の周辺は壱岐対馬国定公園（第一種特別地域）に指定されており、神殿の周りは原生林でシイノキ、ウラジロカシなど樹種が豊富で林内は変化に富み、多くの野鳥が生息しているそうです。

烏帽子岳展望所は対馬でも有数の景勝地で360度の展望を楽しめます。南北遥かに上島、下島を見渡し、海岸線まで森林が迫り島の森林率89%の豊かな森林を実感することができます。

足下の浅茅湾は複雑に入り組み、多くの小島を浮かべるリアス式海岸（溺れ谷地形）は対馬の代表的な地形で、その特徴である“海の穏やかさ”を生かして魚介類の養殖が盛ん

です。

烏帽子岳からは、対馬の山の豊かさや変化に富む海岸線など対馬の魅力を一望することができます。山頂へは舗装道を快適に登り、展望台の直下には駐車場も整備されていますので気軽に訪れることができます。

(NPO 法人地域循環研究所)



和多都美神社

長崎の林業 12月号 第795号  
編集・発行 長崎県林政課  
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号  
電話：095-895-2990  
ファクシミリ：095-895-2596  
メールアドレス：  
s07090@pref.nagasaki.lg.jp